

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

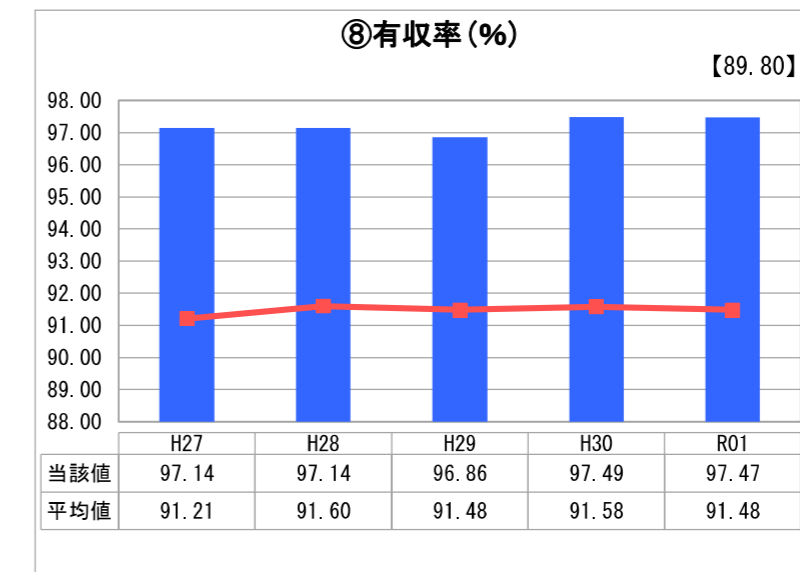
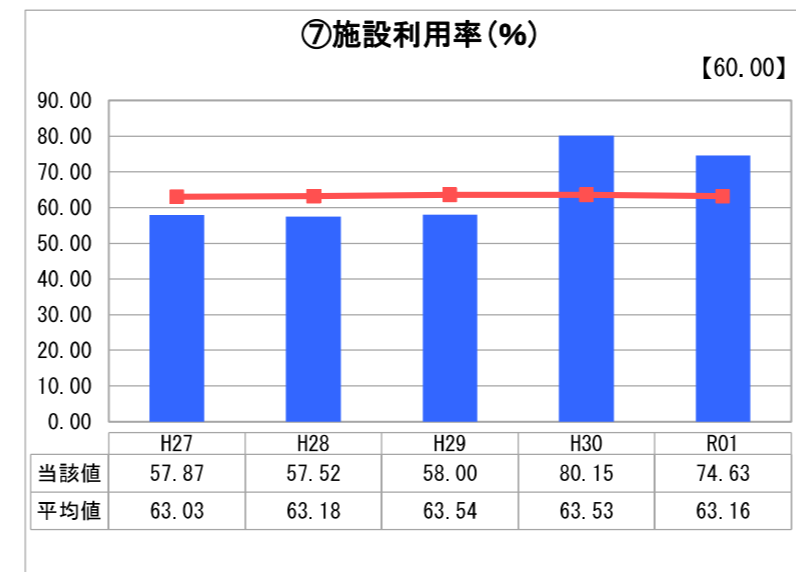
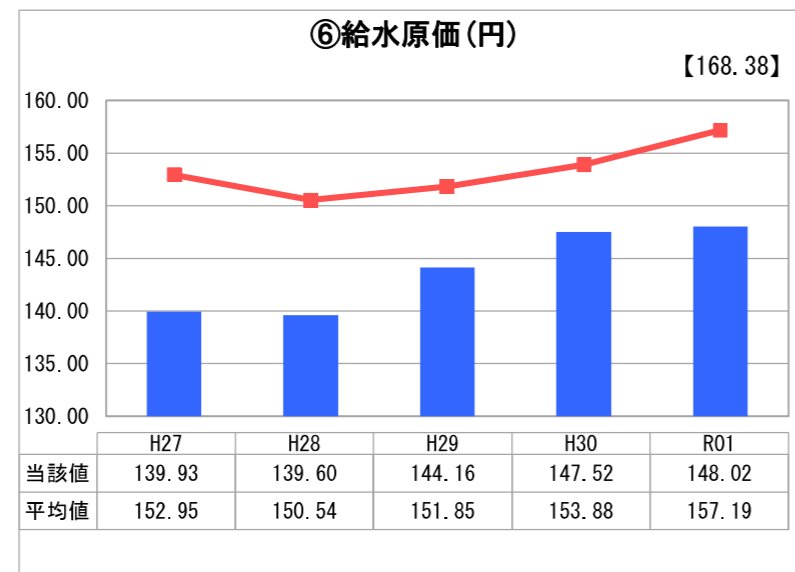
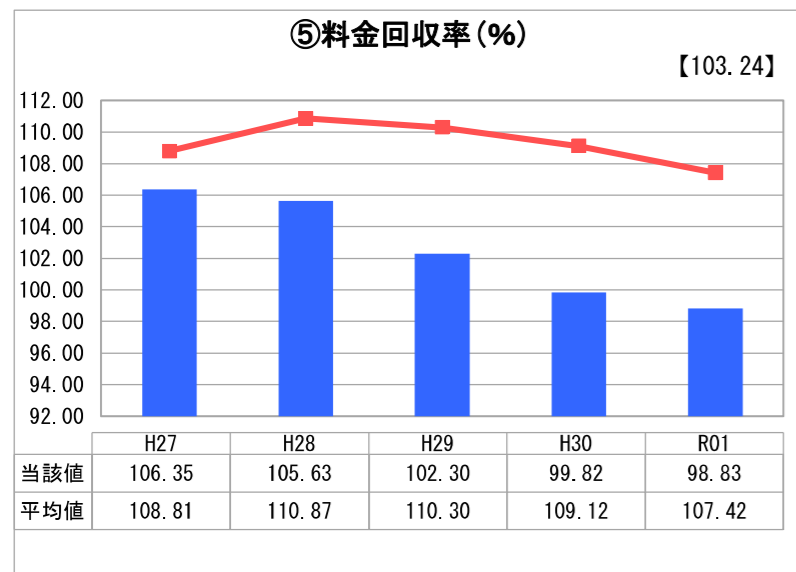
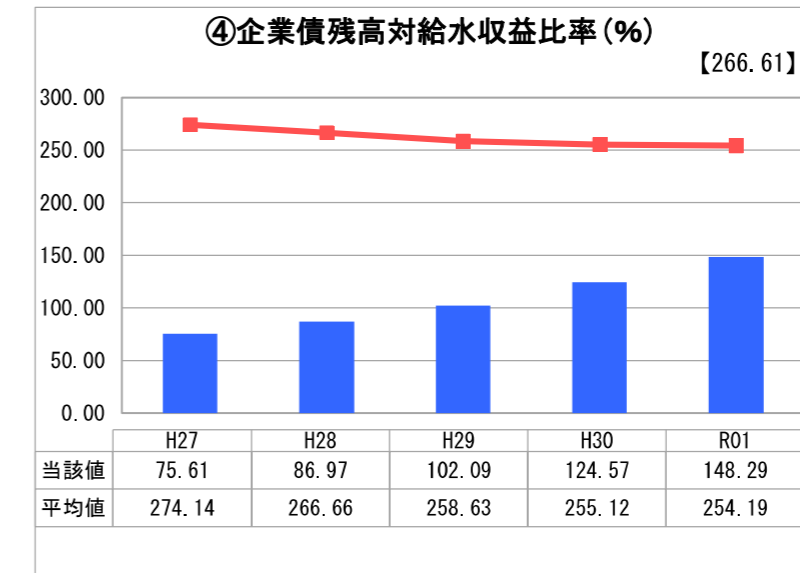
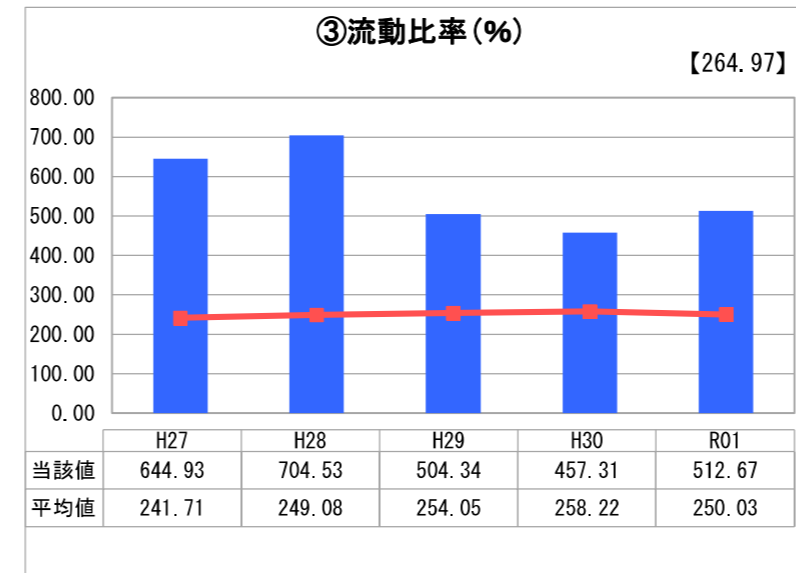
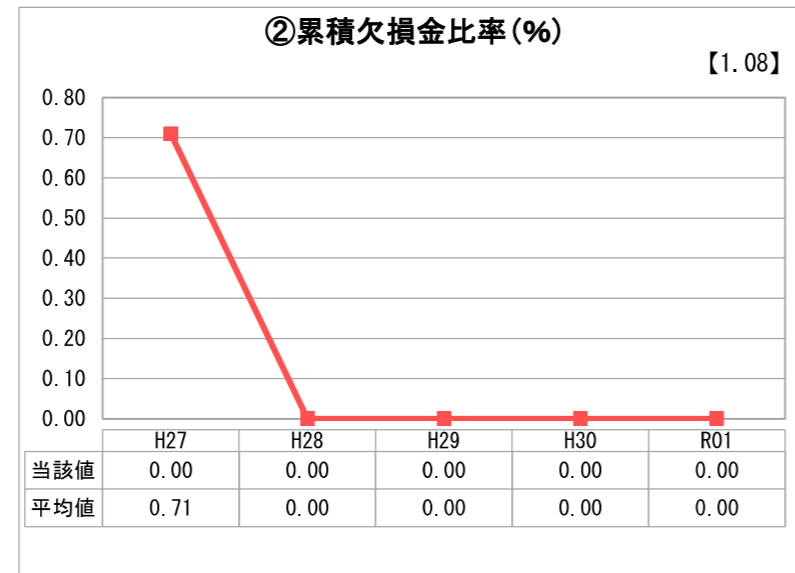
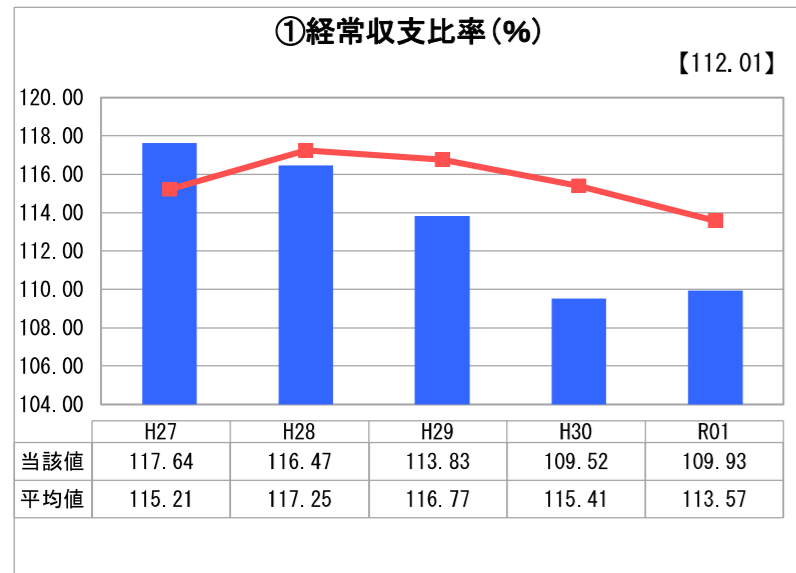
埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	83.83	100.00	2,134	

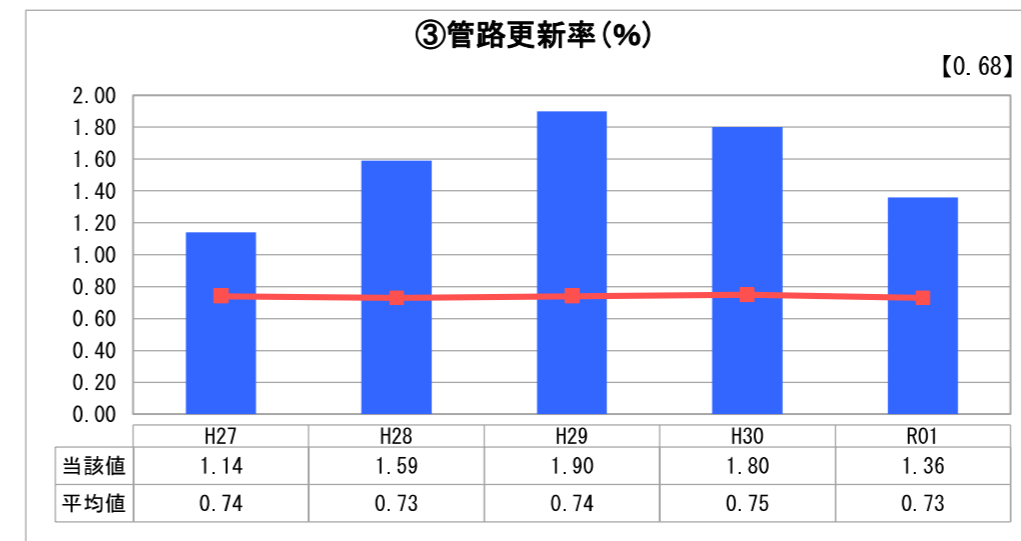
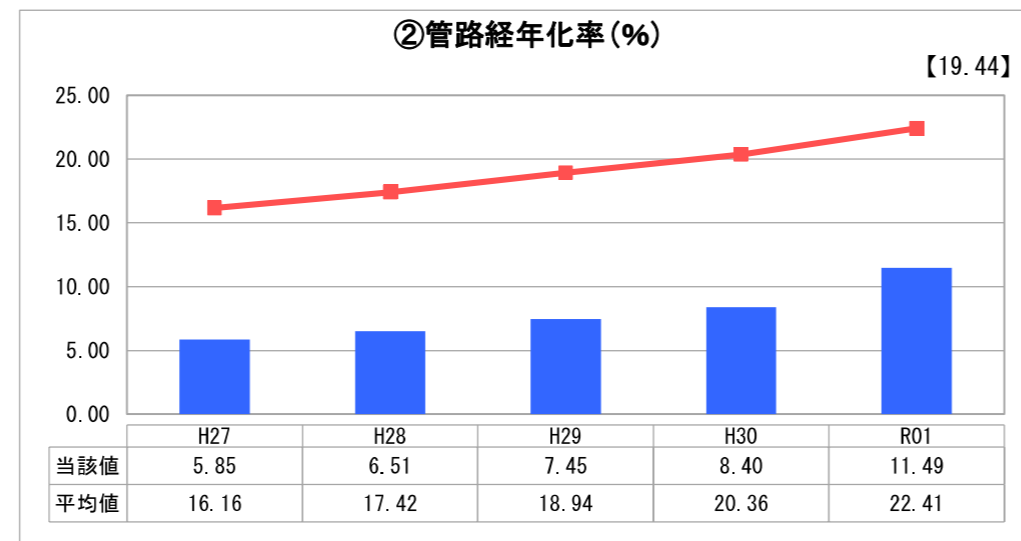
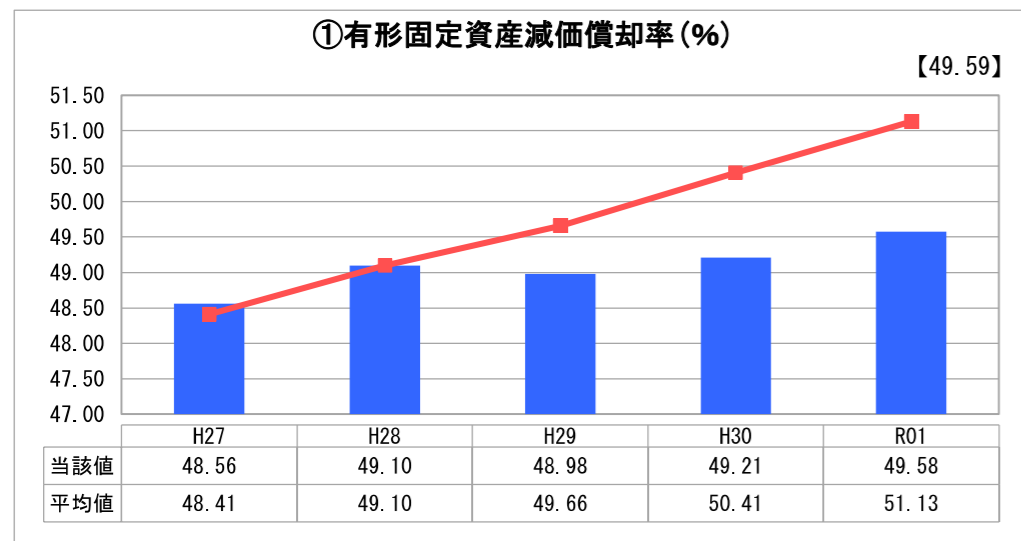
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
344,233	72.11	4,773.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
344,176	67.64	5,088.35

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率  
健全な状況であり、今後も100%超を継続していく必要があります。
- ② 流動比率  
望ましいとされる200%を大きく超えており、支払能力は十分にあるといえます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率  
令和元年度も企業債の借入れを行ったため、前年度と比べ数値が上昇しています。しかし、類似団体と比べ値は低く、健全性は高いといえます。
- ⑤ 料金回収率・⑥ 給水原価  
管路の漏水等に伴う修繕費等の経費の増加による給水原価の上昇に加え、年間有収水量の減少により、平成30年度に引き続き100%を下回りました。同様の傾向は今後も継続していくものと考えられるため、さらなる給水原価の圧縮と、適正な供給単価について検討する必要があります。
- ⑦ 施設利用率  
平成30年度より分母数値は施設能力を用いることとし、実態に即した数値となりました。類似団体と比較し高い数値ですが、一日平均配水量は減少傾向にあるため、施設のダウンサイジングを図り、水道施設の規模適正化を検討する必要があります。  
※R01当該値については、(誤) 74.63 (正) 79.26とします。
- ⑧ 有収率  
類似団体と比べ高い有収率を保っています。管路の布設替えなどにより無効水量の上昇をおさえるため、引き続き適正な維持管理や老朽管更新等を計画的に行い、有収率の低下を防ぐ取り組みが必要です。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率  
使用年数が法定耐用年数の5割程度を経過している状況です。事業費の平準化を図りつつ、計画的に更新していく必要があります。
- ② 管路経年化率  
類似団体と比べ老朽化の度合いは低い状況といえます。しかし、値は増加傾向にあるため、計画的に更新していく必要があります。
- ③ 管路更新率  
類似団体と比較すると更新投資は多いといえます。しかし、② 管路経年化率は増加傾向にあり、経年化・老朽化が進行しています。引き続きダウンサイジングなどを考慮した計画的な取り組みが求められます。

### 全体総括

経常収支比率から、事業経営は健全であり、支払能力も十分にあるといえます。しかし、経営に必要な経費を料金で賄うことができない経営状況であると分析できます。今後も同様の傾向が継続する見込みであることから、適正な料金収入のあり方を検討しつつ、自己財源確保を推進させるなど、一層の経営改善の取り組みが必要であると考えます。

施設については、経年化の進行が続いていることから、計画的に更新を進めていくとともに、水需要の減少に応じたダウンサイジングなど、施設規模の適正化に取り組み、将来に渡り安定供給に努めていきます。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県所沢市 市民医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	ド訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
344,233	6,246	非該当	10:1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
49	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	49
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
39	-	39

**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

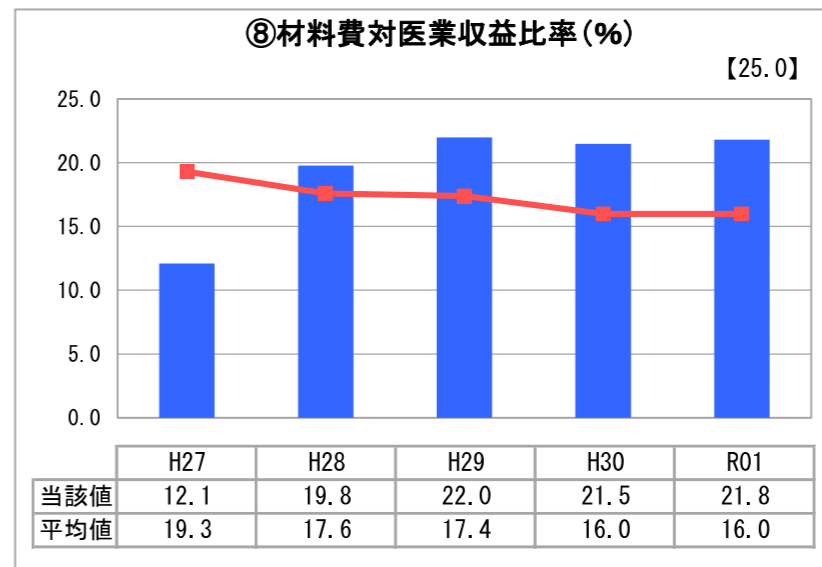
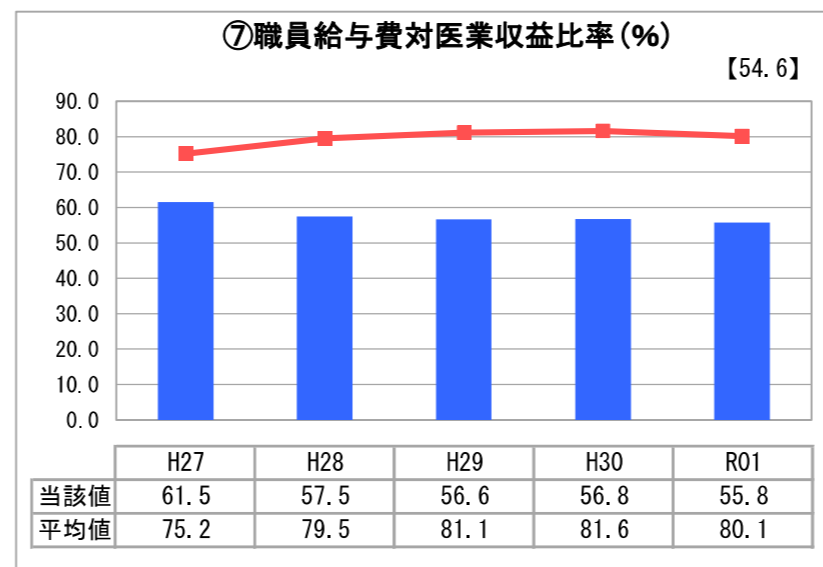
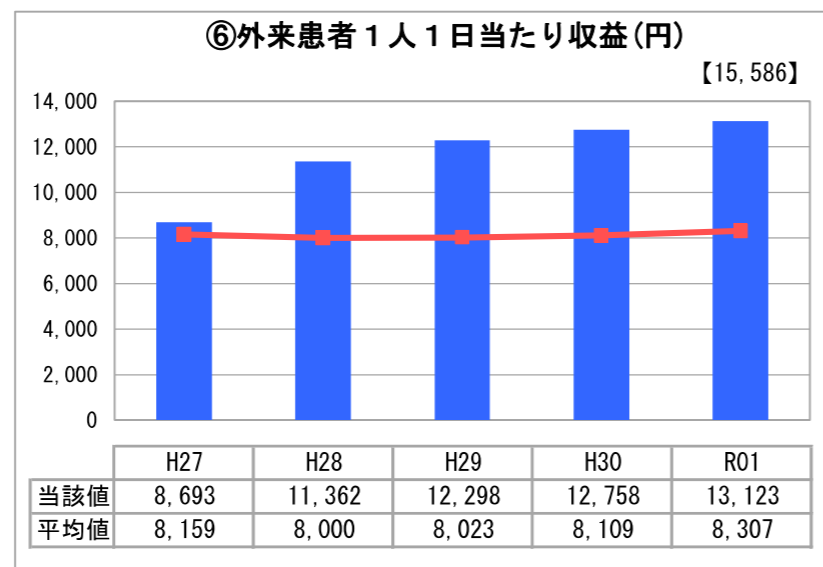
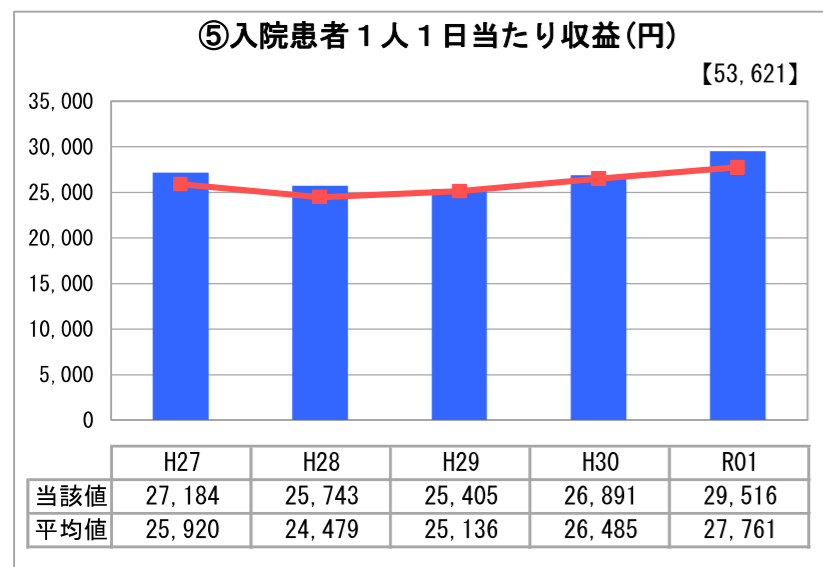
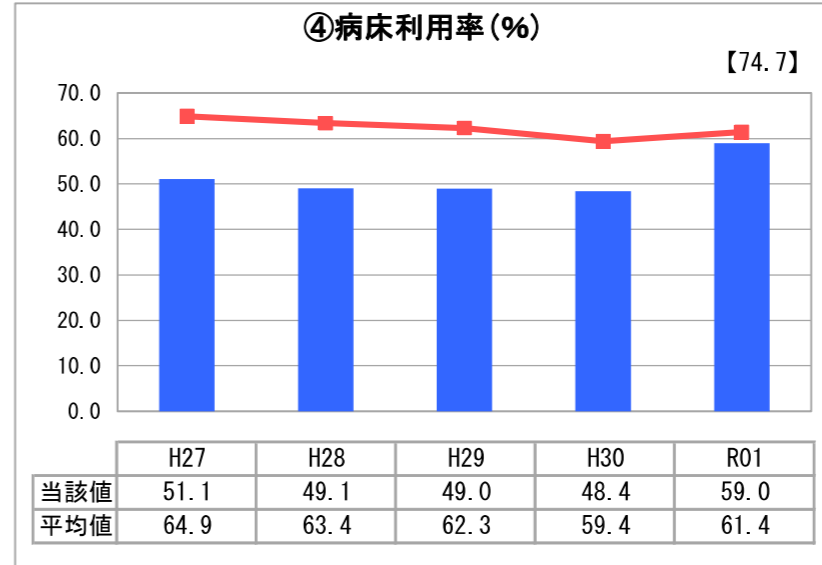
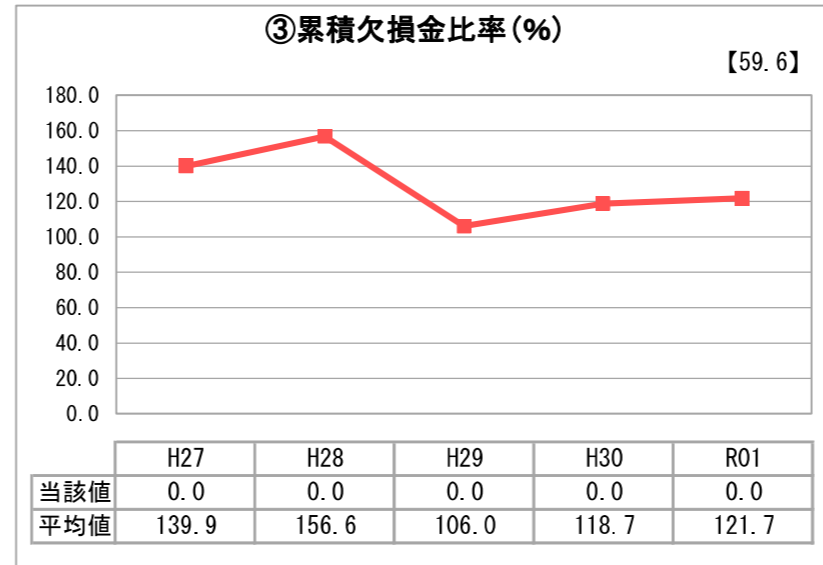
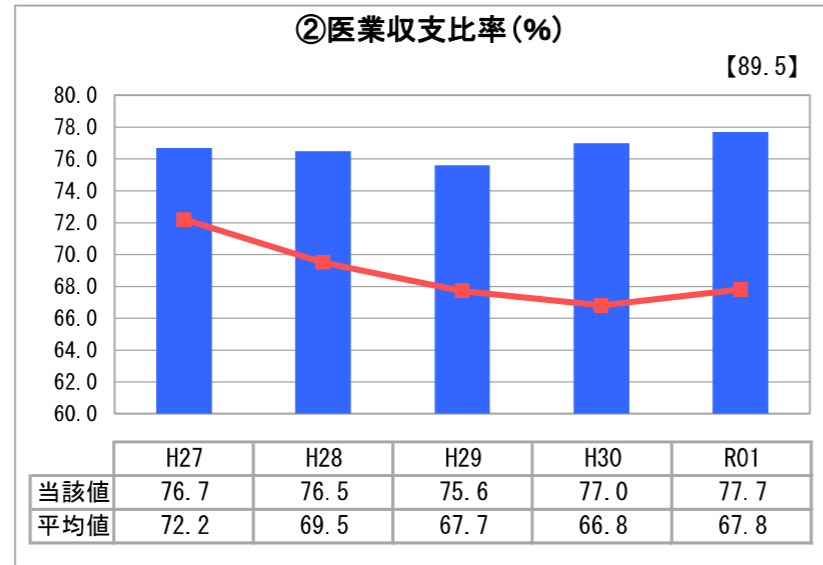
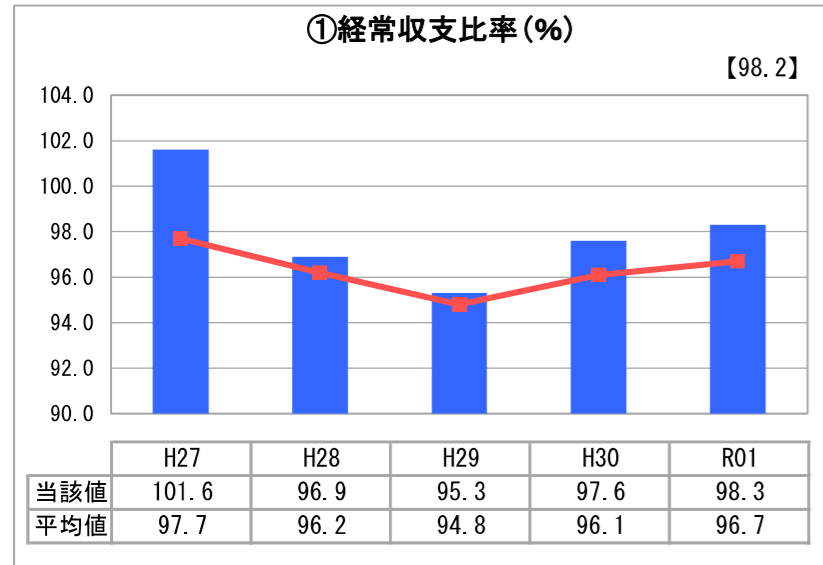
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

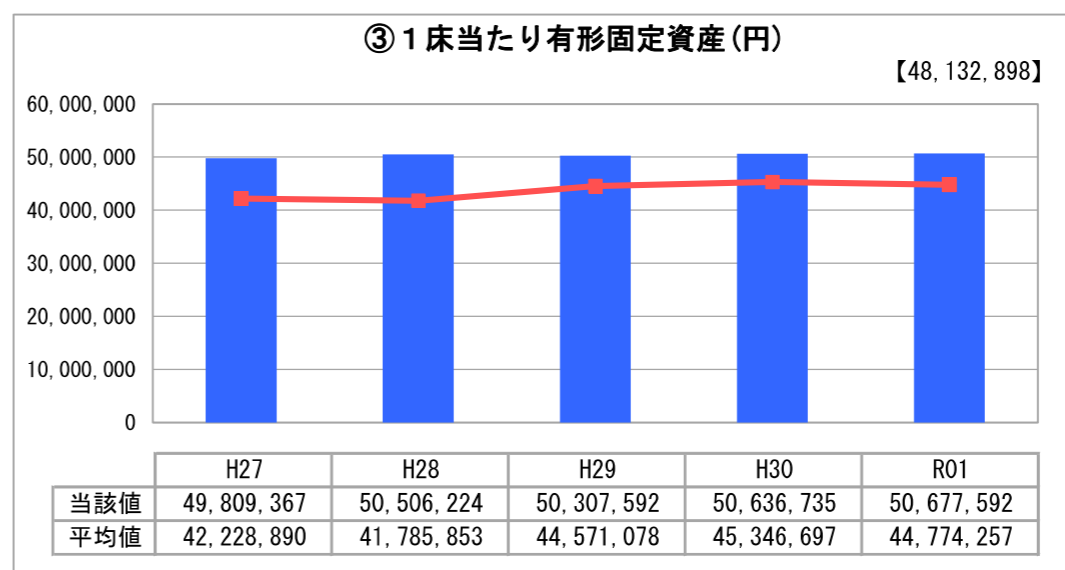
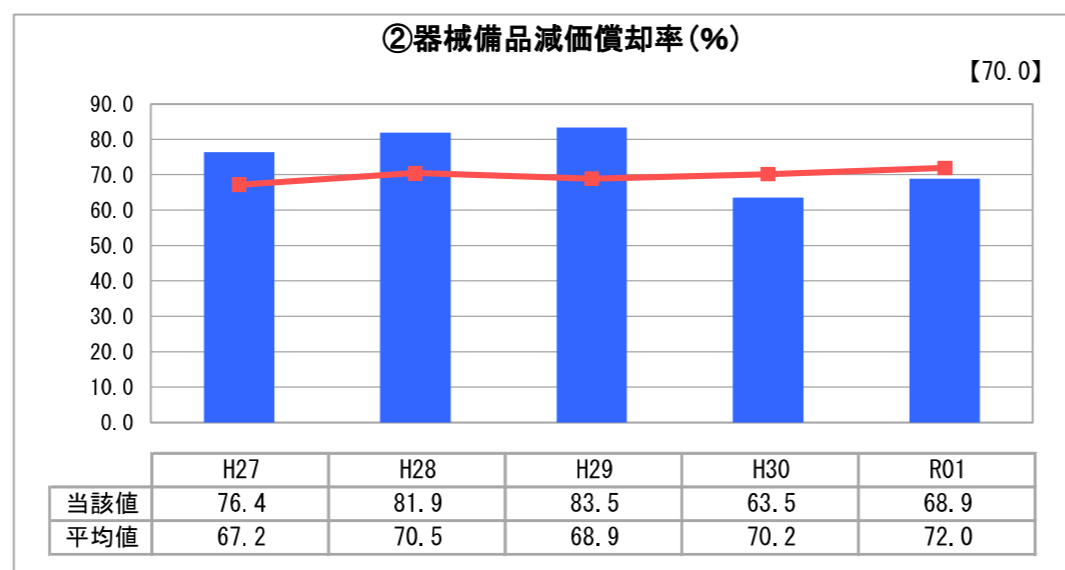
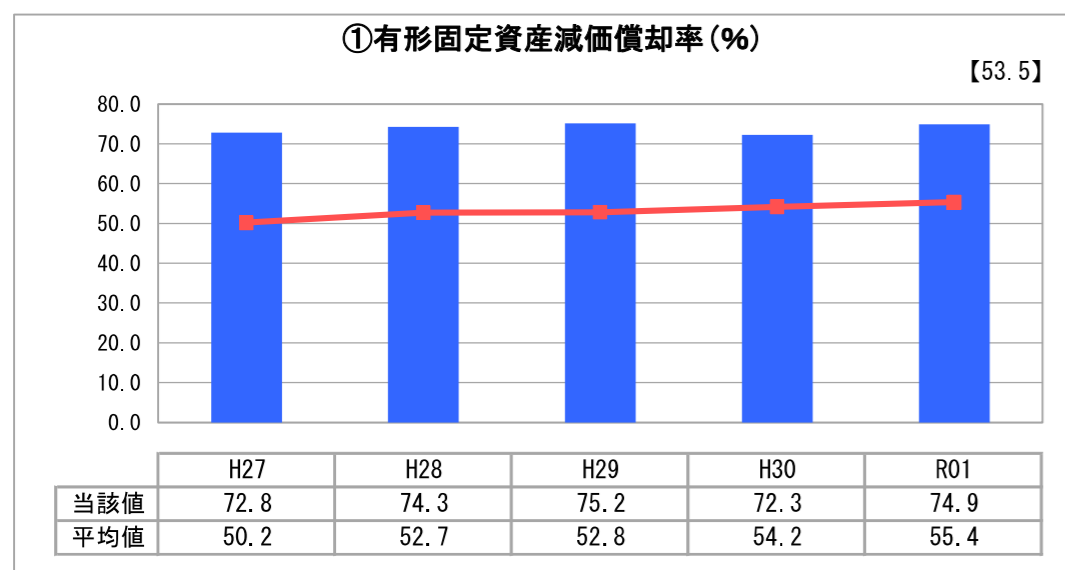
公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## I 地域において担っている役割

埼玉県西部区域にある当センターの果たすべき役割として、在宅医療の後方支援、所沢地区での第二次救急医療体制の病院輪番制への参加、医師会やその他医療機関の協力によるすべての時間帯で対応可能な小児初期救急体制の維持、健診事業による市民の健康保持・増進への貢献に加え、地域での回復期機能病床の不足解消に向けて平成30年11月より急性期機能病床の一部を地域包括ケア病床機能に転換した。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①～③については、類似団体の数値をいずれも上回っている。また、平成27年度以降下降傾向にあった①②も平成30年度から上昇傾向に転じ、前年度数値を上回っているため、基本的には安定的な経営状況にあると言える。但し、③累積欠損金比率については平成25年度以降0%を下回っているが、利益剰余金については減少傾向にある。

④病床利用率については、平成30年11月から急性期機能病床の一部を地域包括ケア病床へ転換したことにより、令和元年度の数値が改善されている。

### 2. 老朽化の状況について

①③については、いずれの項目も類似団体の数値を上回っており、施設の老朽化が進んでいると言える。本館は昭和51年度に建設されたもので、周辺設備も含め老朽化が進んでおり、①有形固定資産減価償却費率が高くなっている要因の一つとなっている。施設の老朽化が進み修繕に係る費用も増加傾向にあるため、施設の整備など適切な対策を講じていくことが必要である。

②器械備品については、平成24年度に更新した医療情報システムが平成30年度に減価償却を終了したため、平成30年度を境に数値が減少している。

### 全体総括

前年度に引き続き、経営の健全性・効率性等を示す各指標については、概ね類似団体の平均値を上回っている。

また、平成30年11月に急性期機能病床の一部を地域包括ケア病床機能に転換したことにより、令和元年度は病床利用率が増加し、収益増加に繋がったため、経営状況が改善した。

今後も、平成29年度から実施している第三次所沢市市民医療センター改革プランに基づき、健全な経営の維持、発展に向けて医業収益の改善及び医業費用の削減に取り組んでいきたい。具体的には、医師等の人材の確保、収益やサービス向上のため、地域包括ケア病床への一部転換と併せ、地域における医療・介護・福祉との連携の強化を図っていくことが重要と考える。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県 所沢市

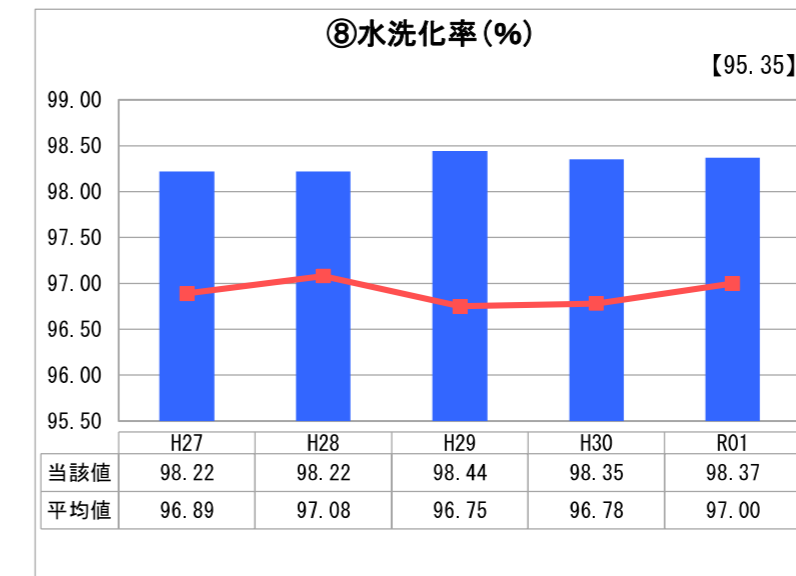
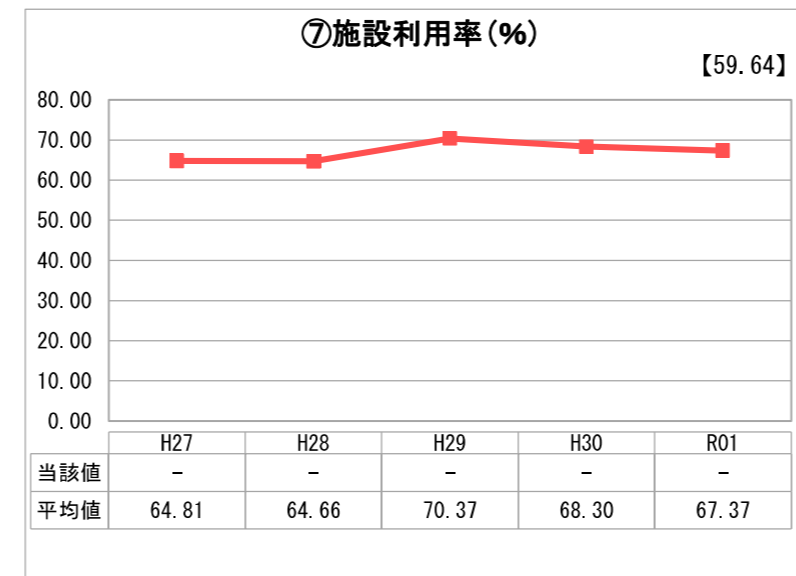
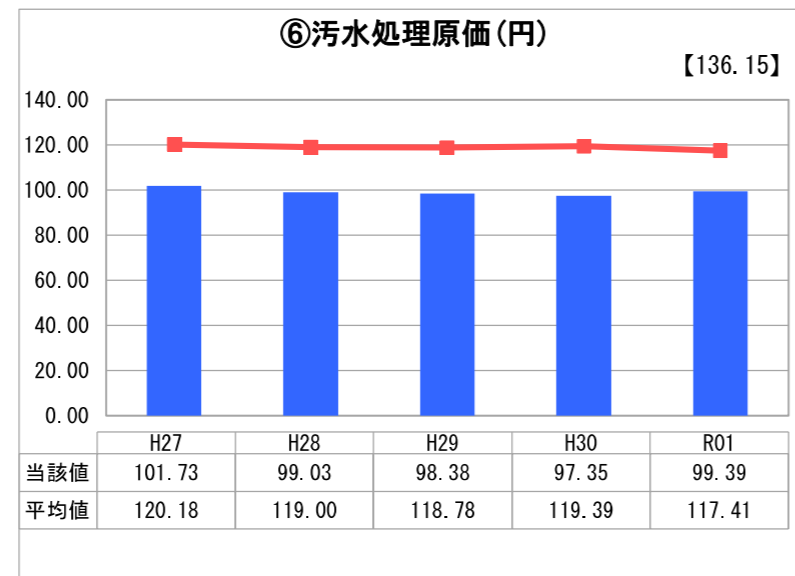
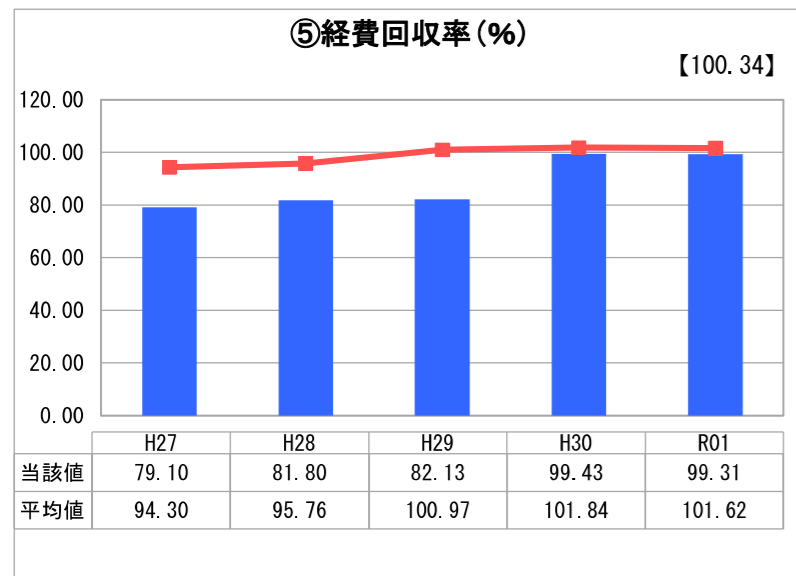
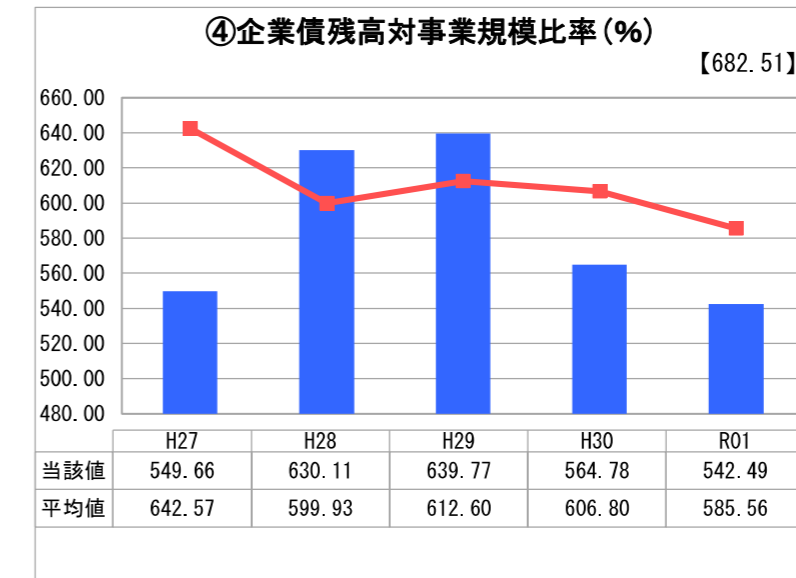
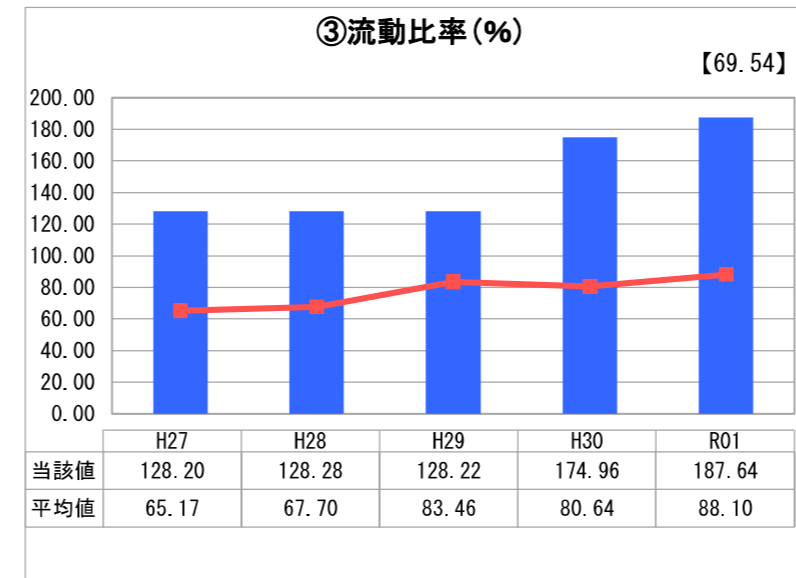
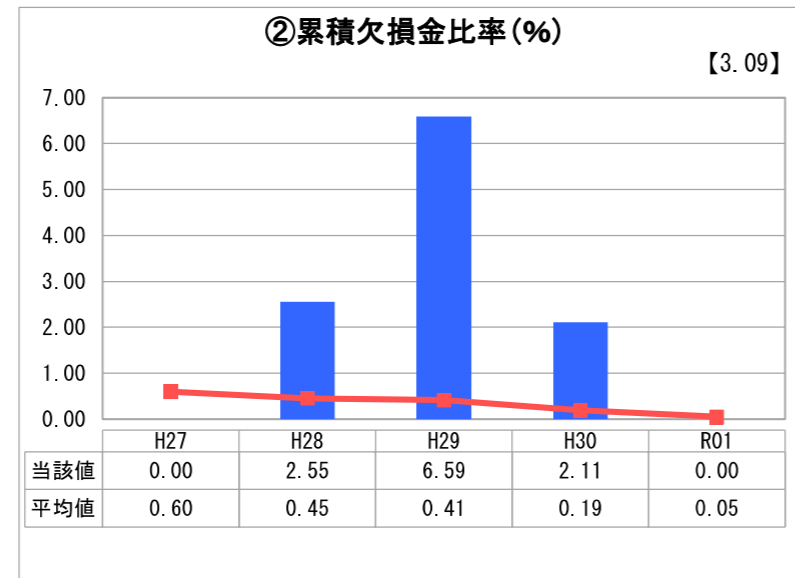
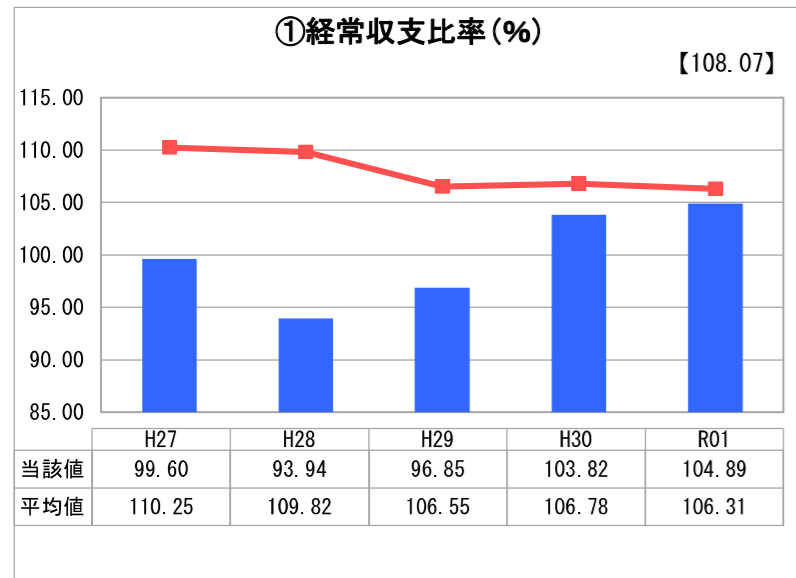
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	77.06	94.42	95.79	1,639

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
344,233	72.11	4,773.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
324,981	32.78	9,914.00

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率  
平成30年度の使用料改定により、値が100%を上回り、良好な経営状況に改善した。しかしながら、一般会計からの繰入金に依存している状況は続いており、さらなる自主財源の確保に取り組みつつ、効率的かつ効果的な事業運営に努める必要があります。

②累積欠損金比率  
平成30年度の使用料改定により経常利益が確保され、令和元年度にて繰越欠損金が解消されました。

③流動比率  
短期的な債務に対する支払能力は維持している経営状況となっています。

④企業債残高対事業規模比率  
順調に償還は進んでおり、類似団体と比較して低い割合となっています。引き続き計画的な償還に努める必要があります。

⑤経費回収率  
使用料の改定により値は改善したものの、依然として100%に到達していません。使用料で回収すべき経費を使用料で賄えていない状況であることから、一層の自助努力が必要です。あわせて、引き続き一般会計より繰り入れられた基準外繰入の削減に努める必要があります。

※R01当該値については、(誤)99.31(正)99.32とします。

⑧水洗化率  
接続率100%に向けて、引き続き水洗化の促進活動に取り組む必要があります。

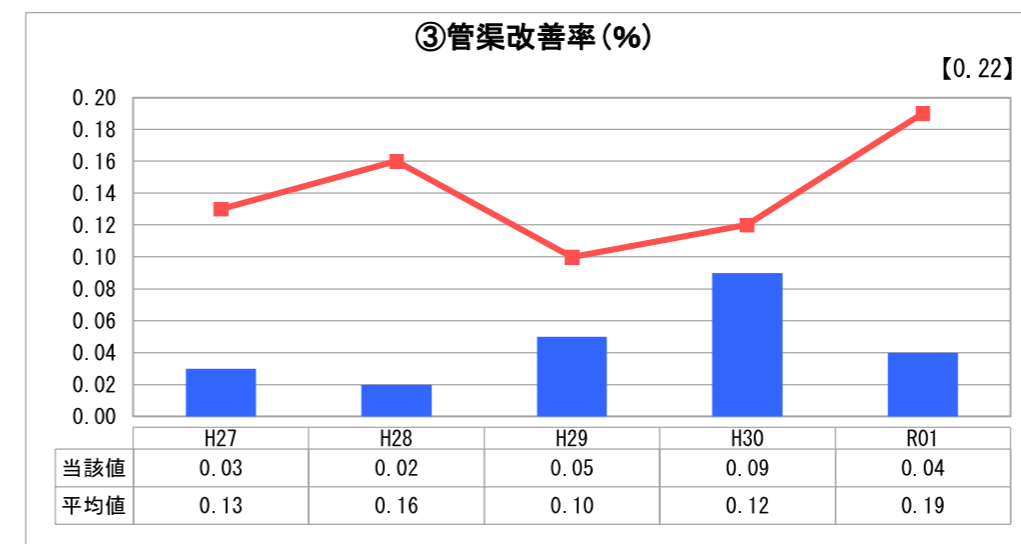
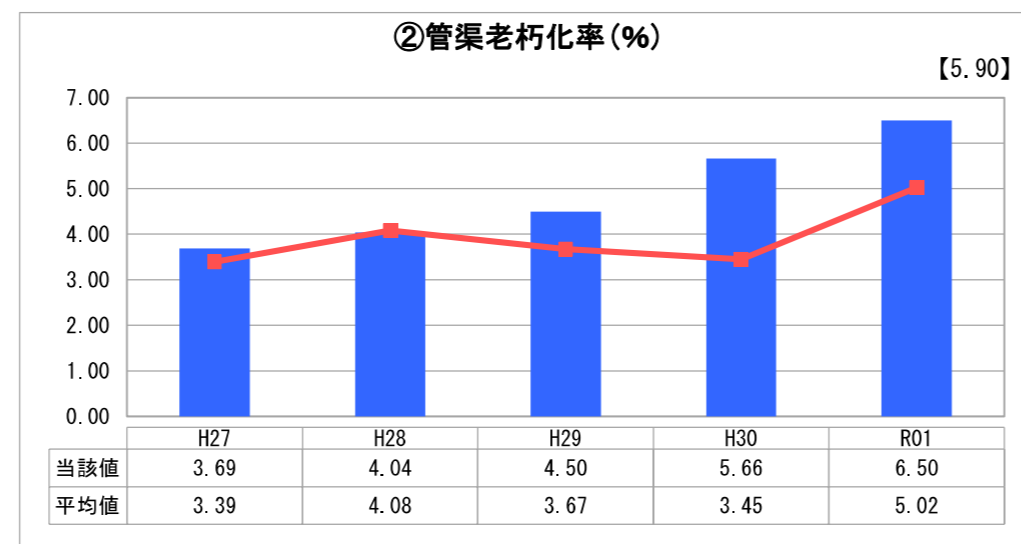
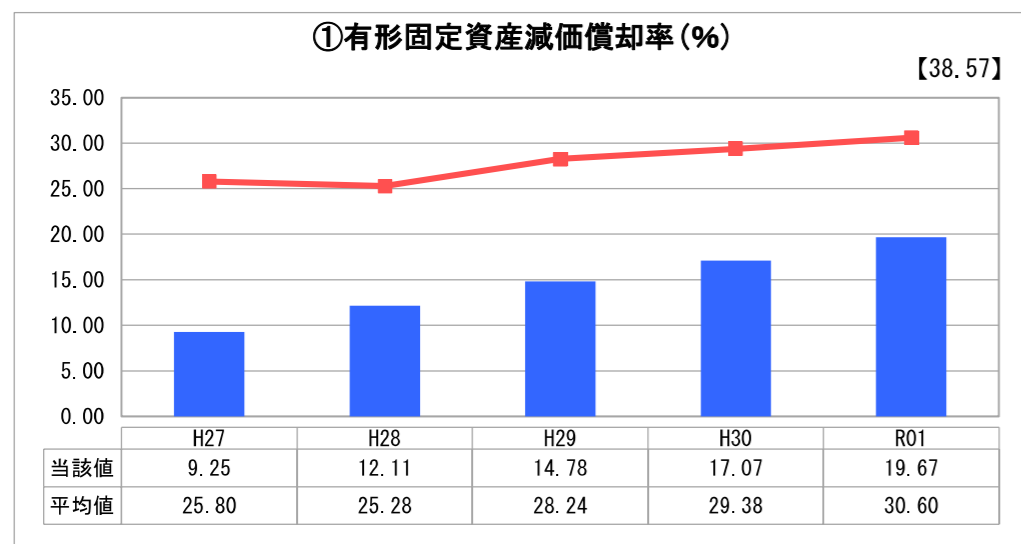
### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率  
平成25年度に地方公営企業法を全適用する際に保有資産を再評価した結果、減価償却費が財務諸表上にほとんど表れていないため、値は平均値を下回っている状況です。

②管渠老朽化率  
直ちに対策を講じなければならない状況ではないものの、施設の点検・検査により現状の把握に努め、施設の延命化などの効率的な運営に努める必要があります。

③管渠改善率  
所沢市ストックマネジメント実施方針に基づき、計画的な施設の点検・調査及び修繕・改築を進めており、陥没事故や機能停止を未然に防ぐよう努めている状況です。

## 2. 老朽化の状況



### 全体総括

前年度に引き続き経常収支は改善され、累積欠損は解消されました。しかし、経費回収率は100%を下回っており、一般会計からの繰入金に依存した状況が続いております。今後、自主的な経営に向け、新たな自己財源の確保により収益向上を図り、一層の経営改善に取り組む必要があると考えます。

施設老朽化などに伴う費用の急増に備えるため経営計画に基づき、費用の平準化や、資本費の抑制のための建設投資の効率化を図り、さらに施設更新に対する財源の確保に取り組む必要があると考えます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。